

◆中止等となった国際大会

- ・第 51 回国際物理オリンピック【来年に順延】
- ・第 17 回国際地理オリンピック【中止】
- ・第 14 回国際地学オリンピック【中止】
- ・国際学生科学技術フェア (ISEF) 2020【オンライン開催、ただし成績優秀者の発表なし】

◆文部科学大臣特別賞受賞者

※所属・学年・年齢は令和 2 年 7 月 31 日時点のもの。

第 51 回国際物理オリンピック	
代表生徒（高校生 5 名）（※）	
氏名（敬称略）	所属・学年
おの たすく 小野 祐	甲陽学院高等学校 3 年（17 歳）（兵庫県）
きたがわ はると 北川 陽斗	滝高等学校 3 年（18 歳）（愛知県）
ささき やすたか 佐々木 保昂	東大寺学園高等学校 3 年（17 歳）（奈良県）
つじ けいた 辻 圭汰	岐阜県立岐阜高等学校 3 年（17 歳）（岐阜県）
ひらいし ゆうだい 平石 雄大	海陽中等教育学校 6 年（17 歳）（愛知県）

※第 15 回全国物理コンテスト全国物理チャレンジ 2019 第 1 チャレンジ及び第 2 チャレンジを経て選抜された優秀者の中から、代表選抜試験を経て選抜された生徒。

第 17 回国際地理オリンピック	
国内大会上位者（高校生 14 名）（※）	
氏名（敬称略）	所属・学年
いわしな かずき 岩科 知樹	筑波大学附属駒場高等学校 3 年（17 歳）（東京都）
おおこうち たかあき 大河内 隆暁	海城高等学校 3 年（18 歳）（東京都）
かじむら けん 梶村 健	麻布高等学校 3 年（17 歳）（東京都）
すがぬま とし 菅沼 斗偲	栄光学園高等学校 3 年（17 歳）（神奈川県）
すずき ゆうと 鈴木 脩人	筑波大学附属駒場高等学校 3 年（17 歳）（東京都）
たいら ともよし 平 智悦	ラ・サール高等学校 3 年（17 歳）（鹿児島県）
たすみ きょうすけ 田隅 響介	茨城県立水戸第一高等学校 3 年（18 歳）（茨城県）
なかむら うどう 中村 宇堂	筑波大学附属駒場高等学校 3 年（18 歳）（東京都）

なかもり りょう 中森 遼	灘高等学校 2年(16歳) (兵庫県)
はっとり こたろう 服部 虎太郎	早稲田高等学校 1年(16歳) (東京都)
まつい りょうたろう 松居 遼太郎	東大寺学園高等学校 2年(17歳) (奈良県)
まみや ちひろ 間宮 千博	開成高等学校 3年(18歳) (東京都)
もりやま あきたか 森山 日天	広島大学附属福山高等学校 3年(17歳) (広島県)
やぎ しんのすけ 八木 新之助	甲陽学院高等学校 3年(17歳) (兵庫県)

※第14回科学地理オリンピック日本選手権第一次選抜試験及び第二次選抜試験の成績上位者。

第14回国際地学オリンピック	
国内大会上位者(高校生15名)(※)	
氏名(敬称略)	所属・学年
あんべ さとし 安部 哲	岐阜県立大垣北高等学校 3年(18歳) (岐阜県)
いわさき のえ 岩崎 野笑	神戸女学院高等学部 2年(16歳) (兵庫県)
おおかわ あつや 大川 敦也	東大寺学園高等学校 3年(18歳) (奈良県)
おおこうち たかあき 大河内 隆暁	海城高等学校 3年(18歳) (東京都)
かさい りょうすけ 葛西 涼介	横浜市立南高等学校 3年(17歳) (神奈川県)
きしま ひろき 杵島 裕樹	栄光学園高等学校 2年(16歳) (神奈川県)
きたがわ はると 北川 陽斗	滝高等学校 3年(18歳) (愛知県)
こんどう ひろかず 近藤 大航	灘高等学校 3年(17歳) (兵庫県)
さとう ひろやす 佐藤 弘康	栄東高等学校 1年(16歳) (埼玉県)
すがぬま とし 菅沼 斗悞	栄光学園高等学校 3年(17歳) (神奈川県)
たかき ゆきひろ 高木 志滉	東京都立戸山高等学校 3年(17歳) (東京都)
たかはし けいた 高橋 慶多	立命館慶祥高等学校 3年(17歳) (北海道)
たかはた かずま 高畑 和万	筑波大学附属駒場高等学校 3年(17歳) (東京都)
つじた けんき 辻田 健樹	洛南高等学校 3年(17歳) (京都府)

やまだ りんたろう 山田 倫太郎	海陽中等教育学校 6年(17歳) (愛知県)
---------------------	------------------------

※第12回日本地学オリンピック予選の成績上位者。

国際学生科学技術フェア (ISEF) 2020	
代表生徒等 (高校生等 18名) (※)	
氏名 (敬称略)	所属・学年、研究発表テーマ、受賞状況
いいだ かずき 飯田 和生	筑波大学 1年(18歳) (安田学園高等学校 (東京都) 出身) 【個人研究】「ミツバチは人工甘味料を飲むのか」 動物科学部門
しおの かなで 塩野 かなで	ボストン大学 1年(18歳) (2021年1月進学予定) (東京都立日比谷高等学校 (東京都) 出身) 【個人研究】「統計情報に基づく購買傾向分析」 行動・社会科学部門
たかつ まい 高津 舞衣	広島大学 1年(18歳) (兵庫県立宝塚北高等学校 (兵庫県) 出身) 【個人研究】「カラメル化に必要な構造を同定する」 化学部門
たまの ひろと 玉野 弘人	徳島県立城南高等学校 (徳島県) 出身 (19歳) 【チーム研究】「新たな分析法確立を目指して」 化学部門
にった ゆうき 新田 悠貴	徳島県立城南高等学校 (徳島県) 出身 (18歳) 【チーム研究】「新たな分析法確立を目指して」 化学部門
いしかわ ゆう 石川 悠	福島県立福島高等学校 3年(17歳) (福島県) 【チーム研究】「プラズマによる気流制御技術を用いた小型風力発電風車の製作」 エネルギー：持続可能な材料・設計部門
よこやま よしみ 横山 佳観	福島県立福島高等学校 3年(17歳) (福島県) 【チーム研究】「プラズマによる気流制御技術を用いた小型風力発電風車の製作」 エネルギー：持続可能な材料・設計部門
あいはら せれな 相原 聖玲星	静岡理科大学静岡北高等学校 3年(17歳) (静岡県) 【チーム研究】「省エネルギー水電解と鉄炭素電池を組み合わせた富栄養化防止システムの開発」 環境工学部門
おがわ ふくし 小川 福史	静岡理科大学静岡北高等学校 3年(17歳) (静岡県) 【チーム研究】「省エネルギー水電解と鉄炭素電池を組み合わせた富栄養化防止システムの開発」 環境工学部門
みむろ ゆうき 三室 裕暉	静岡理科大学静岡北高等学校 3年(18歳) (静岡県) 【チーム研究】「省エネルギー水電解と鉄炭素電池を組み合わせた富栄養化防止システムの開発」 環境工学部門

かたおか まさひと 片岡 柁人	島根県立出雲高等学校 3年(17歳) (島根県) 【個人研究】「オカダンゴムシのフンに常在するブレビバクテリウム属菌による揮発性抗カビ効果～ダンゴムシ研究11年目で掴んだ産業的・学術的可能性～」 微生物学部門
はしもと こうし 橋本 晃志	大阪府立大手前高等学校定時制の課程 4年(18歳) (大阪府) 【個人研究】「クレーターの直径は重力に支配されるか?～重力可変装置を用いた衝突クレーター重力スケーリング則の実験的検証～」 物理学・天文学部門
いわた こうよう 岩田 晃陽	名古屋大学 1年(18歳)(名古屋市立向陽高等学校(愛知県)出身) 【チーム研究】「ユリの花粉管誘導Ⅲ」 植物科学部門
くぼ ふうと 久保 風仁	名古屋市立大学 1年(18歳)(名古屋市立向陽高等学校(愛知県)出身) 【チーム研究】「ユリの花粉管誘導Ⅲ」 植物科学部門
まえだ あやか 前田 彩花	ノートルダム清心学園清心女子高等学校 3年(17歳) (岡山県) 【個人研究】「イネの吸水機構～植物が最も吸水できる時間とは～」 植物科学部門
もとい みう 元位 美夢	埼玉県立浦和第一女子高等学校 3年(18歳) (埼玉県) 【個人研究】「ミドリゾウリムシと共生クロレラ」 植物科学部門
ながしま たいら 長島 大来	渋谷教育学園幕張高等学校 3年(17歳) (千葉県) 【個人研究】「歩行性甲虫(カブトムシ)の運動解析に基づく6足歩行ロボットの製作と制御」 ロボット工学・知能機械部門
なめかた こういち 行方 光一	筑波大学附属駒場高等学校(東京都)出身(18歳) 【個人研究】「自動作画システムの考案」 ロボット工学・知能機械部門

※第63回日本学生科学賞の地方審査・中央審査を経て代表として選抜された生徒等及びJSEC2019(第17回高校生科学技術チャレンジ)の予備審査・一次審査会・最終審査会を経て代表として選抜された生徒等。

※テーマは国内大会でのもの

◆コンテストの概要

○国際物理オリンピック (IPhO=International Physics Olympiad) について

国際物理オリンピックは、1967年にポーランドのワルシャワで第1回大会が開催された物理の国際的なコンテスト。参加資格は、20歳未満で且つ大学などの高等教育を受けていないこととされている。各国から高校生等が参加し、物理学に対する興味関心と能力を高め合うとともに、国際的な交流を通じて参加国における物理教育を一層発展させることを目的としている。科学・技術のあらゆる分野において増大する物理学の重要性、また次代を担う青少年の一般的教養としての物理学の有用性を鑑み、開催国を持ち回りとして毎年開催されている。

2020年度の第51回国際物理オリンピック(リトアニア大会)は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、1年順延された。

○国際地理オリンピック (iGeo= International Geography Olympiad) について

国際地理オリンピックは、1965年、エストニアの大学生が企画した「環バルト海地理競技会」をルーツとし、各国の地理学を学ぶ学生が集まり、共同で問題を作成し地理教育の未来を語り合った。その後、1994年に行われたIGU(国際地理学連合)の総会で、ポーランドとオランダの委員が、「国際地理オリンピック」の実施を提案し、1996年にオランダで5か国が参加して第1回が開催された。2011年まではIGU大会に合わせ、隔年開催であったが、2012年からは毎年開催されるようになった。

2020年度の第17回国際地理オリンピック(トルコ大会)は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、中止された。その後来年(2021年8月)に順延することが決定された。

○国際地学オリンピック (IESO=International Earth Science Olympiad) について

国際地学オリンピック(International Earth Science Olympiad; IESO)は、国際地質科学連合(IUGS)の下部組織が支援するInternational Geoscience Education Organization(IGEO)の主要活動として創設された、高校生のための地学の国際大会である。2007年に第1回大会が韓国で開催され、以降毎年開催されている。大会は、地学分野に秀でた生徒の発掘と地学学習の促進、ならびに地学および地学教育における国際交流・協力の促進を主な目的としている。

2020年度の第14回国際地学オリンピック(ロシア大会)は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、中止された。

○国際学生科学技術フェア (ISEF=International Science and Engineering Fair) について

(1) 沿革

○ 国際学生科学技術フェア(ISEF=アイセフ)は1950年に米国ペンシルベニア州フィラデルフィアで第1回大会を開催。本年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止されたが、ファイナリストによる研究発表などを含めたオンラインイベントが2020年5月19日~23日に開催された。

○ 日本は1958年から同大会に出場し、本年度で62回目の参加。

(2) 審査・各賞

○ 2020年オンラインイベントでは、参加者の時差や通信環境等により公平性が担保できないとして審査及び各賞の発表は行われなかった。

(3) 参加資格・参加枠

- 研究実施当時高校生又は同等の学校・学年に在籍する者。
- 主催者が指定する地域大会※ごとに参加枠が定められる。

※日本において指定された大会は、「高校生科学技術チャレンジ (JSEC)」(主催：朝日新聞社、テレビ朝日) 並びに「日本学生科学賞」(主催：読売新聞社) の2大会。

(4) オンラインイベントの概要

- 開催期間：2020年5月19日～23日（日本時間）
- 参加国・人数：56の国・地域から1255名、1030プロジェクトが参加
- プログラム
 - ・参加生徒等の各プロジェクトの研究内容やプレゼン動画等の大会専用ページへの掲載及びチャット機能による参加生徒等同志の交流
 - ・科学技術分野で活躍する研究者・企業幹部等によるパネルディスカッションやシンポジウムのライブ配信